

別表 (学部の学科、研究科の専攻等)

学部の学科、研究科の専攻等名	収容定員	収容数	定員充足率
	(a)	(b)	(b)/(a) × 100 (%)
	(名)	(名)	(%)
文学部			
人文学科	760	871	114.6
教育学部			
教育学科	220	252	114.5
法学部			
法学課程	880	1,049	119.2
経済学部*			
経済学科	300	356	118.7
経営学科	270	283	104.8
1年次(学科分属前)	190	211	111.1
理学部*			
数学科	150	154	102.7
物理学科	105	112	106.7
化学科	225	234	104.0
生物科学科	240	248	103.3
地球科学科	180	194	107.8
1年次(学科分属前)	300	356	118.7
医学部			
医学科	590	604	102.4
(うち医師養成に係る分野)	(590)	(604)	(102.4)
保健学科	180	192	106.7
歯学部			
歯学科	360	358	99.4
(うち歯科医師養成に係る分野)	(360)	(358)	(99.4)
薬学部			
総合薬学科	320	343	107.2
工学部*			
材料工学科	120	127	105.8
応用化学科	210	220	104.8
情報工学科	180	194	107.8
電子工学科	180	188	104.4
システム工学科	180	195	108.3
応用物理学科	150	174	116.0
原子工学科	120	128	106.7
機械工学科	240	256	106.7
土木工学科	240	239	99.6
建築都市学科	135	143	105.9
環境工学科	165	168	101.8
資源開発工学科	90	92	102.2
3年次編入学(各学科共通)	20	38	190.0
1年次(学科分属前)	670	766	114.3
農学部*			
生物資源科学科	108	114	105.6
応用生命科学科	90	94	104.4
生物機能化学科	105	111	105.7
森林科学科	108	116	107.4
畜産科学科	69	70	101.4

学部の学科、研究科の専攻等名	収容定員	収容数	定員充足率
農業工学科	90	98	108.9
農業経済学科	75	82	109.3
1年次(学科分属前)	215	240	111.6
獣医学部			
獣医学科	240	254	105.8
水産学部*			
水産海洋科学科	120	137	114.2
海洋生産システム学科	120	143	119.2
海洋生物生産科学科	180	189	105.0
海洋生物資源化学科	180	187	103.9
水産教員養成課程	45	0	0.0
(うち水産教員養成に係る分野)	(45)	(0)	(0.0)
1年次(学科分属前)	215	240	111.6
文学研究科			
思想文化専攻	63	70	111.1
(うち修士課程)	(36)	(48)	(133.3)
博士課程)	(27)	(22)	(81.5)
歴史地域文化専攻	189	228	120.6
(うち修士課程)	(108)	(118)	(109.3)
博士課程)	(81)	(110)	(135.8)
言語文学専攻	77	93	120.8
(うち修士課程)	(44)	(42)	(95.5)
博士課程)	(33)	(51)	(154.5)
人間システム科学専攻	84	91	108.3
(うち修士課程)	(48)	(46)	(95.8)
博士課程)	(36)	(45)	(125.0)
教育学研究科			
教育学専攻	153	191	124.8
(うち修士課程)	(90)	(113)	(125.6)
博士課程)	(63)	(78)	(123.8)
法学研究科			
法学政治専攻	161	180	111.8
(うち修士課程)	(88)	(126)	(143.2)
博士課程)	(73)	(54)	(74.0)
法律実務専攻	100	103	103.0
(専門職学位課程)			
経済学研究科			
経済システム専攻	63	49	77.8
(うち修士課程)	(36)	(29)	(80.6)
博士課程)	(27)	(20)	(74.1)
現代経済経営専攻	77	74	96.1
(うち修士課程)	(44)	(49)	(111.4)
博士課程)	(33)	(25)	(75.8)
経営情報専攻	62	37	59.7
(うち修士課程)	(44)	(33)	(75.0)
博士課程)	(18)	(4)	(22.2)
理学研究科			
数学専攻	158	129	81.6
(うち修士課程)	(92)	(92)	(100.0)
博士課程)	(66)	(37)	(56.1)
物理学専攻	135	123	91.1
(うち修士課程)	(78)	(87)	(111.5)
博士課程)	(57)	(36)	(63.2)

学部の学科、研究科の専攻等名	収容定員	収容数	定員充足率
(a)	(名)	(b)	(b)/(a) × 100 (%)
化学専攻 (うち修士課程 博士課程)	165 (96) (69)	177 (130) (47)	107.3 (135.4) (68.1)
生物科学専攻 (うち修士課程 博士課程)	155 (90) (65)	183 (112) (71)	118.1 (124.4) (109.2)
地球惑星科学専攻 (うち修士課程 博士課程)	130 (76) (54)	113 (68) (45)	86.9 (89.5) (83.3)
医学研究科			
医科学専攻 (修士課程)	40	70	175.0
生体機能学専攻 (博士課程)	80	17	21.3
病態制御学専攻 (博士課程)	120	173	144.2
高次診断治療学専攻 (博士課程)	96	146	152.1
癌医学専攻 (博士課程)	48	52	108.3
脳科学専攻 (博士課程)	56	32	57.1
社会医学専攻 (博士課程)	40	28	70.0
歯学研究科			
口腔医学専攻 (博士課程)	168	160	95.2
薬学研究科			
生体分子薬学専攻 (うち修士課程 博士課程)	51 (30) (21)	81 (48) (33)	158.8 (160.0) (157.1)
創薬化学専攻 (うち修士課程 博士課程)	51 (30) (21)	74 (44) (30)	145.1 (146.7) (142.9)
医療薬学専攻 (うち修士課程 博士課程)	44 (26) (18)	61 (43) (18)	138.6 (165.4) (100.0)
工学研究科			
物質工学専攻 (うち修士課程 博士課程)	102 (60) (42)	118 (100) (18)	115.7 (166.7) (42.9)
分子化学専攻 (うち修士課程 博士課程)	116 (68) (48)	114 (93) (21)	98.3 (136.8) (43.8)
量子理工学専攻 (うち修士課程 博士課程)	100 (58) (42)	86 (74) (12)	86.0 (127.6) (28.6)
量子エネルギー工学専攻 (うち修士課程 博士課程)	72 (42) (30)	57 (48) (9)	79.2 (114.3) (30.0)
機械科学専攻 (うち修士課程 博士課程)	114 (66) (48)	150 (125) (25)	131.6 (189.4) (52.1)

学部の学科、研究科の専攻等名	収容定員	収容数	定員充足率
社会基盤工学専攻 (うち修士課程 博士課程)	93 (54) (39)	131 (103) (28)	140.9 (190.7) (71.8)
都市環境工学専攻 (うち修士課程 博士課程)	114 (66) (48)	168 (125) (43)	147.4 (189.4) (89.6)
環境資源工学専攻 (うち修士課程 博士課程)	93 (54) (39)	137 (108) (29)	147.3 (200.0) (74.4)
システム情報工学専攻 (うち修士課程 博士課程)	112 (55) (54)	141 (102) (39)	125.9 (175.9) (72.2)
電子情報工学専攻 (うち修士課程 博士課程)	94 (48) (46)	144 (87) (57)	153.2 (181.3) (123.9)
農学研究科			
生物資源生産学専攻 (うち修士課程 博士課程)	195 (114) (81)	225 (143) (82)	115.4 (125.4) (101.2)
環境資源学専攻 (うち修士課程 博士課程)	165 (96) (69)	197 (138) (59)	119.4 (143.8) (85.5)
応用生命科学専攻 (うち修士課程 博士課程)	135 (78) (57)	170 (115) (55)	125.9 (147.4) (96.5)
獣医学研究科			
獣医学専攻 (博士課程)	86	67	77.9
水産科学研究科			
環境生物資源科学専攻 (うち修士課程 博士課程)	149 (86) (63)	198 (118) (80)	132.9 (137.2) (127.0)
生命資源科学専攻 (うち修士課程 博士課程)	135 (78) (57)	158 (112) (46)	117.0 (143.6) (80.7)
地球環境科学研究科			
地圏環境科学専攻 (うち修士課程 博士課程)	97 (58) (39)	67 (41) (26)	69.1 (70.7) (66.7)
生態環境科学専攻 (うち修士課程 博士課程)	143 (86) (57)	130 (69) (61)	90.9 (80.2) (107.0)
物質環境科学専攻 (うち修士課程 博士課程)	79 (46) (33)	107 (71) (36)	135.4 (154.3) (109.1)
大気海洋圏環境科学専攻 (うち修士課程 博士課程)	101 (62) (39)	89 (56) (33)	88.1 (90.3) (84.6)
国際広報メディア研究科			
国際広報メディア専攻 (うち修士課程 博士課程)	96 (54) (42)	108 (69) (39)	112.5 (127.8) (92.9)

計画の実施状況等

1 収容定員と収容数に +15% を超える差がある主な理由

学部の学科、研究科の専攻等名	収容定員		収容数	定員充足率
	(a)	(名)	(b)	(b)/(a) × 100 (%)
情報科学研究科		28	41	146.4
複合情報学専攻	(24)		(34)	(141.7)
(うち修士課程)	(4)		(7)	(175.0)
博士課程)	3	2	2	87.5
コンピュータサイエンス専攻	(24)		(22)	(91.7)
(うち修士課程)	(8)		(6)	(75.0)
博士課程)	4	2	4	89.4
情報エレクトロニクス専攻	(39)		(33)	(84.6)
(うち修士課程)	(8)		(9)	(112.5)
博士課程)	3	3	3	79.5
生命人間情報科学専攻	(33)		(26)	(78.8)
(うち修士課程)	(6)		(5)	(83.3)
博士課程)	3	4	4	105.3
メディアネットワーク専攻	(30)		(34)	(113.3)
(うち修士課程)	(8)		(6)	(75.0)
博士課程)	3	3	3	97.1
システム情報科学専攻	(27)		(31)	(114.8)
(うち修士課程)	(8)		(3)	(37.5)
博士課程)				
医療技術短期大学部				
看護学科	160		157	98.1
理学療法学科	40		44	110.0
作業療法学科	40		41	102.5
衛生技術学科	80		80	100.0
診療放射線技術学科	80		84	105.0
専攻科助産学特別専攻	20		21	105.0

(注1) を付した研究科の専攻及び医療技術短期大学部の学科は、平成15年度入学者をもって募集を停止した専攻及び学科を示す。  
 (注2) \* を付した学部の各学科における収容定員及び収容数は、2～4年次を示す。

【学士課程】

- 法学部法学課程では、司法試験・公務員試験等の資格試験受験希望者の留年が多い。
- 経済学部経済学科では、公務員試験等の資格試験受験希望者による留年やいわゆる就職難人が、近年減少しつつあるものの、まだ相当数存在する。
- 理学部1年次(学科分属前)については、例年、退学・休学があることを考慮して、相当数の学生を合格させたことが主な理由である。
- 工学部応用物理学専攻では、例年に比して留年者が多かった。また、同学部の3年次編入学については、入学形態の多様化により優秀な編入学希望者を積極的に受け入れた結果であり、学部学生全体に占める編入学生の割合は1.3%程度で、教育上の問題は生じていない。
- 水産学部海洋生産システム学科については、水産教員養成課程の定員について、各学科に均等に学生を配属していることによるものである。水産学部全体としては、定員充足率104.2%であり、同学部においては、平成18年度からの組織再編に伴い、同課程の収容定員について見直すこととしている。

【修士課程】

- 文学研究科思想文化学専攻では、取り上げる文献の関係で論文完成に時間がかかり、特に社会人学生の一部は職務の繁忙等のため、修業年限内に修士論文を提出しない学生が多い。
- 教育学研究科教育学専攻では、社会人の占める割合が高く、就業先の職務の繁忙化、転勤等による留年が多い。
- 法学研究科法政治学専攻では、学士課程と同様に司法試験・公務員試験等の資格試験受験希望者の留年が多い。
- 医学研究科医科学専攻では、修士課程・博士課程一貫教育による医科学研究者・教育者としての人材養成を目指して、博士課程への進学を奨励しており、定員収容率の低い博士課程(基礎医学分野)の収容数の増加が期待できるため、成績優秀者を多く受け入れている。
- 理学研究科化学専攻・生物科学専攻、薬学研究科の全専攻、工学研究科の量子エネルギー工学専攻を除く各専攻、農学研究科の全専攻、水産科学研究科の全専攻、地球環境科学研究科物質環境科学専攻、国際広報メディア研究科国際広報メディア専攻及び情報科学研究科複合情報学専攻においては、社会的ニーズにより修士修了者に対する求人が増えており、多くの成績優秀者が入学を志願したため、十分な教育・研究指導を行える範囲で学生を入学させたことが主な理由である。  
 なお、これらの社会情勢や学生の要望を考慮して、工学研究科及び水産科学研究科においては、平成17年度からの組織再編に伴い収容定員を見直した。

【博士課程】

- 文学研究科の思想文化学専攻を除く各専攻では、学問分野の性格により、博士論文完成に時間を要することや海外留学等による留年が多いことにより、修業年限内に論文を提出できないことが主な理由である。
- 教育学研究科教育学専攻では、修士課程と同様に社会人の占める割合が高く、就業先の職務の繁忙化、転勤等による留年が多い。
- 医学研究科病態制御学専攻・高次診断治療学専攻は、臨床医学分野から構成されており、臨床系大学院学生が北海道の地域医療に貢献する場合も多く、修業年限内に博士論文を提出できないなどの特殊事情がある。
- 薬学研究科生体分子薬学専攻・創薬化学専攻は、社会人学生・留学生が多く、留年が多い。
- 工学研究科電子情報工学専攻及び情報科学研究科複合情報学専攻では、多くの成績優秀者が入学を志願したため、十分な教育・研究指導を行える範囲で学生を入学させた。
- 水産科学研究科環境生物資源科学専攻は、社会情勢を反映した学生のニーズによるものである。

2 収容定員と収容数に -15% を超える差がある主な理由

【学士課程】

- 水産学部の水産教員養成課程は収容数0人であるが、同学部においては水産教員養成課程の定員について、各学科に均等になるよう学生を配属していることによるものである。課程修了認定に必要な単位については、各学科に所属しながら修得できるようにカリキュラム編成しており、水産学部全体としては、定員充足率104.2%である。なお、同学部においては、平成18年度からの組織再編に伴い、同課程の収容定員について見直すこととしている。

【修士課程】

- 経済学研究科経済システム専攻では、学内外の専門職大学院設置の影響があるとともに、近年の就職難から進路変更が見られた。また、同研究科経営情報専攻では、同様の理由に加えて、税理士法の改正による試験科目免除の制度廃止による影響もある。
- 地球環境科学研究科地圏環境科学専攻・生態環境科学専攻では、寒冷域を対象とする講座を志望する学生の減少が見られた。

- ・ 情報科学研究科情報エレクトロニクス専攻・生命人間情報科学専攻では、新設の研究室に学外から教授等を採用したため、学生確保に時間不足などがあった。

#### 【博士課程】

- ・ 文学研究科思想文化学専攻では、修士課程修了者の就職状況が良く、博士課程への進学希望者が少ないことが主な理由である。
- ・ 法学研究科法政治学専攻では、研究者を養成する課程として入学に高いハードルを課してきたこと、また、平成12年度からの定員増により充足率が低く推移した。平成16年度から定員を見直ししており、定員充足率は今後改善が見込まれる。
- ・ 経済学研究科の全専攻では、博士課程修了時の就職難などにより、志望する学生が少ないことが主な理由である。
- ・ 理学研究科の生物科学専攻を除く各専攻については、研究職・開発職の社会的ニーズが少ない傾向が続き、特に近年の景気の冷え込みがこの傾向に拍車をかけている。
- ・ 医学研究科生体機能学専攻の定員充足率が低い主な理由は、基礎医学分野への進学希望者が少ないことによる。同研究科脳科学専攻・社会医学専攻では、臨床医学分野とともに基礎医学分野を含むため、そちらへの進学は少なかった。加えて、脳科学専攻では、教授の定年退職の影響もあった。なお、基礎医学分野では、医科学専攻（修士課程）との連携により数年後の改善が見込まれる。
- ・ 工学研究科物質工学専攻・分子化学専攻・量子エネルギー工学専攻・量子物理工学専攻・機械科学専攻・社会基盤工学専攻・環境資源工学専攻では、関連業界の好況などにより、修士課程修了者の企業等への就職数が多いことに加えて、3年間の経済的負担と博士課程修了時の就職状況が改善しないことが、進学者が少ない主な理由である。また、同研究科システム情報工学専攻では、情報科学研究科新設の影響が見られた。
- ・ 獣医学研究科獣医学専攻では、社会情勢の影響で学部卒の就職希望者が増えた。
- ・ 水産科学研究科生命資源科学専攻では、社会情勢を反映した学生のニーズの減少に起因している。
- ・ 地球環境科学研究科地圏環境科学専攻では、一般的に学生の志望が減少し、同研究科大気海洋圏環境科学専攻では、物質循環を対象とする講座を志望する学生が減少している。なお、平成17年度から改組を行った。
- ・ 情報科学研究科のコンピュータサイエンス専攻・生命人間情報科学専攻・システム情報科学専攻では、新設の研究室に学外から教授等を採用したため、学生確保に時間不足などがあった。同研究科メディアネットワーク専攻では、新組織のため専攻内での広報が不十分であったことが主な理由となった。

### 3 秋季入学の実施状況及び入学者数（平成16年10月）

修士課程：理学研究科（0名）、薬学研究科（0名）、農学研究科（5名）  
地球環境科学研究科（1名）、情報科学研究科（3名）

博士課程：理学研究科（4名）、薬学研究科（0名）、工学研究科（22名）  
農学研究科（5名）、獣医学研究科（3名）、水産科学研究科（10名）  
地球環境科学研究科（1名）、情報科学研究科（9名）